

黒部奥の廊下 赤木沢 8月8日(土)～10(月)

メンバー： S . I I . O K . O(記)

(癒しの溪のはずが・・・)

8月8日(土) 天候：曇り

コースタイム：飛越トンネル7:30～寺地山～北ノ俣岳避難小屋11:50

概要：一週間延期した赤木沢。今回は入念に天気図をチェックし、赤木沢に入渓する予定日の10日は天気に恵まれると判断し、7日夜出発した。

夜半に飛越トンネル入口駐車場に到着、テントを張って仮眠を取る。しかし、4時頃から雨が降り出し、出鼻を挫かれ、止むまで出発を見合わせることにした。雨具を着けて出発するパーティもいたが、初日から濡れたくない。6時半頃になって止みだしたので、早速準備に取りかかり、曇天の中を出発した。

しかし、行動中も時折小雨の降るあいにくの天気となり、今日の行程は北ノ俣岳を越えて中俣乗越までの予定であったが、ツエルトで雨に濡れるのもイヤだし、担ぎ上げる水も重たいし、稜線は幕営禁止でもあるし、と、いろいろと理由を並べて、結局今日は避難小屋に泊まることにした。

小屋は10名程度泊まれるが、宿泊者は単独者1名を含めて4名だけであった。しかも、小屋内はトイレ付きで、小綺麗に整頓されていて、営業小屋とさほど変わらない快適さであった。小屋を管理されている関係者の方に感謝申し上げたい。快適な一夜を過ごさせていただいた。

8月9日(日) 天候：曇り時々雨

コースタイム：避難小屋4:40～北ノ俣岳(6:35-6:55)～ウマ沢降り口(8:30-8:45)～黒部五郎岳(9:45-10:05)～ウマ沢降り口(10:40-10:55)～赤木沢出合(15:20-15:50)～兎平16:00

概要：昨日は、午後になって少し晴れ間も出たが、再び夜半から雨が降り出し、かなり雨音の激しい降りとなり、睡眠を妨げられた。予定通り、3時過ぎに起床、出発準備を整えた。やがて出発する頃には小止みとなったので、天気の回復を願いつつ小屋を後にした。

小屋の周辺は湿原地帯のため、木道が整備されていて歩きやすかったが、木道がとぎれると、途端に歩きづらくなった。この飛越新道はどこかもぬかるんでいて、登りはともかく、下りは滑りやすく、下山では大変苦労させられた。土質のせいであろうか、水はけが大変悪い。

結局今日も小雨の降るあいにくの天気となったが、稜線からは、黒雲の下に薬師や槍、剣岳などを見ることができた。北ノ俣岳頂上で休憩を取り、その後、赤木岳を越え、昨日のキャンプ予定地である中俣乗越に到着した。

これよりさらにウマ沢下降地点まで進み、荷物をデポして黒部五郎岳を往復した。曇天ではあったが、雨も止み、快適な稜線歩きを楽しんだ。眼下に広がるカールを、次回はスキーで滑ることを願いつつ、シュプールを思い描いた。5年前、悪天のため敗退しているだけに、来春は是非とも訪れて滑りたいものである。

ウマ沢下降地点に戻り、登攀装備を付け、ウマ沢を下る。雪渓はわずかに残っているだけで、難なく水流に出て、どんどん水量を増していく沢筋を辿って下って行った。途中、難所の大滝にぶつかるが、左岸から大きく高巻き、ロープを使うことなく降り立つことができた。これ以外は、これといった難所はなく、赤木沢に合流した。出合いからは、赤木沢の素晴らしい斜瀑が望めたが、この間の雨のため、心なしか水量が多いようだ。

これより、滝を一つ下ると、奥の廊下との合流地点に達した。合流地点は深いト口となっており、幽邃な趣を感じさせた。右岸に付けられたまき道を越えて、奥の廊下に降り立つと、そこは、廊下の呼び名に相応しい蕩々と流れる美しい風景が展開していた。さっそく、竿を出すのが、アタリはなく、時間が無いのですぐに止めにした。

これより、奥の廊下を徒渉、対岸に渡り、兎平に上がって野営地を捜した。一帯は平坦地であるが、湿原状態のため、笹原を開拓してツエルトを設営した。これで今日の予定は終了。しばしつるぎ疲れ

を癒した。しかし、夕食を終える頃から、また雨が降り出した。しばらくすれば止むであろうと思っていたが、結局この雨は、翌日の昼まで降り続けた。ツェルトを打つ雨音と川の轟音に悩まされ、さらに翌日の徒渉を心配しつつ、快眠のできない一夜となった。

8月10日(月) 天候：雨、昼頃からガスと強風

コースタイム：兎平 5:10～大滝 9:20～稜線(11:25-11:40)～北ノ俣岳 12:25～避難小屋(14:00-14:50)～飛越トンネル駐車場 18:50

概要：朝3時半に起床。雨は依然として降り続いており、できるだけ早く出発しないと増水が問題であった。4時半過ぎから明るくなり、撤収を終え、5時10分に出発した。

まず、奥の廊下の水量は昨日よりかなり増していたが、ひざ上までの徒渉で無事にクリアでき、一安心、しかし、赤木沢に入ると、かなり水量が増している。昨日、クライミングダウンで下った最初の斜瀑に近づくことができない。流れが速く増水しているので、徒渉も思うに任せない。結局大きく高巻しかなかった。今日は時間を食いそうであった。

この先のウマ沢の出会いにて、今日の行動を検討、ウマ沢を辿って戻るか、このまま赤木沢を詰めるのか。判断に迷った。私は、口では、ウマ沢を戻るのが安全であると主張しながら、私の体は赤木沢の方向に向かっていた。不安はあったが、内心は行けると踏んでいた。これもリーダーの決断か……。

この後も、増水した流れに時間を食い、慎重な行動が求められた。それでも、徐々に水量は少なくなり始め、中流域を越えると、先のメドが立ち、一安心することができた。それでも大滝の流れは豪快であった。大滝は左岸のリッジを登ったが、痛快な感動を覚える箇所でもあった。踏み後もしっかり付いて、ロープなしでもパートナーへの不安はまったく感じなかった。

大滝を越えると、やがて二股となり、右股にルートを取った。これ以後、水量はかなり減ったが、滝の連瀑が見られるなど、飽きさせない。やがて、水脈も細くなる頃、素晴らしい湿原帯にお花畑が展開した。源流部の園の癒しを感じさせる光景が展開していた。どこでも自由に歩けるが、それだけに気も使う。ガスの中、稜線を目指して登っていくと、目の間に雷鳥が現れた。すぐに逃げるのかと思ったが、逃げようとしな。こちらのカメラに収まるまで、愛くるしい姿を披露してくれた。

やがて、稜線の縦走路に出たが、強風が吹いており、体感気温はかなりの寒さを感じさせた。北西から風が吹いていた。気圧配置が変わったのであろうか。しばし休憩の後、北ノ俣岳を目指し、下山を急いだ。

この後、避難小屋で大休止した後、飛越トンネルを目指したが、この下山路には、大変苦労させられた。道はぬかるんでいる上、すべて歩きづらいことこの上ない。避難小屋から駐車場まで、4時間近くかかり、着いたときは、すっかり日暮れてしまった。



飛越新道はぬかるみ状態



避難小屋



小屋の内部



曇天のため稜線はガスの中



小屋から上部は湿原地帯



北ノ俣岳頂上(8月9日)



薬師岳



槍ヶ岳



剣岳



黒部五郎岳頂上



イワカガミ



ウマ沢下り口



ウマ沢の大滝



奥の廊下(8月10日)



赤木沢出合



増水した赤木沢



ライチョウ



クルマユリ



強風の北ノ俣岳頂上